

### 2022年度日本地震工学会大会優秀発表賞を受賞

マルチハザードリスク評価研究部門の土肥裕史特別研究員が、2022年度日本地震工学会大会優秀発表賞を受賞しました。

**受賞コメント** 本講演では、複数の海域で発生する津波の危険性を総合的に評価することを目的として、千島海溝・日本海溝・相模トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震を対象とした、4海域を統合した確率論的津波ハザードの試算結果について報告しました。防災科研では津波防災に資することを目的として、全国を対象とした確率論的津波ハザード評価を実施し、得られた結果を津波ハザードステーション (J-THIS) 等で公開しております。



### 科学技術への顕著な貢献 2022(ナイスステップな研究者)に選定

地震津波火山ネットワークセンター / 地震津波防災研究部門の久保田達矢特別研究員が、科学技術への顕著な貢献2022(ナイスステップな研究者)に選定されました。「ナイスステップな研究者」は、科学技術・学術政策研究所(NISTEP)が、科学技術イノベーションの様々な分野において活躍し、日本に元気を与えてくれる研究者を選定したものです。

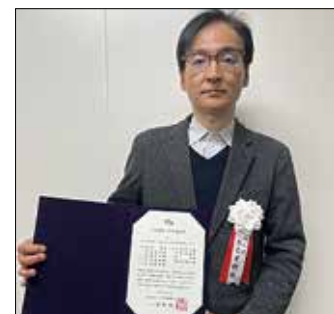
**コメント** 2022年1月のトンガの噴火の津波に関する研究をはじめ、これまで防災科研で進めてきた研究を高く評価していただいたと感じております。非常に光栄に感じておりますが、多くの方々のご協力があってこそその選定と思っております。引き続き努力してまいります。



### 2021年度日本地震工学会論文賞を受賞

マルチハザードリスク評価研究部門の先名重樹主幹研究員が、2021年度日本地震工学会論文賞を受賞しました。

**受賞コメント** 令和3年度日本地震工学会論文賞をいただき、大変光栄に思っております。熊本地震における阿蘇地域で発生した地盤災害に関する今回の論文は、地震観測記録、ボーリング調査等の地質調査、微動探査等の物理探査、地形、航空写真、レーザー測量結果等の様々なデータを用いて、各分野の研究者が分析を行い、議論を十分に重ねた上でとりまとめた論文となっています。

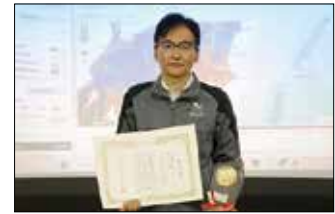


## 「いい地盤の日アワード 2022」大賞を受賞

マルチハザードリスク評価研究部門の先名重樹主幹研究員が、「いい地盤の日アワード 2022」大賞を受賞しました。個人での受賞は初となります。

**受賞コメント** 2010年ごろから取り組んできた、関東地方における浅部・深部統合地盤構造モデルの構築および作成手法等の情報を文部科学省地震本部およびJ-SHIS等にて2021年3月に公開、また、そのモデルを作成するための主要な地盤情報として、微動アレイ観測・地盤情報管理等のシステムを構築し、複数の特

許取得を経て、民間に安定的に活用いただけるまでになりました。さらに、今年の11月に地盤を対象とした物理探査では世界初となる、微動アレイ観測の国際標準（ISO24057:2022）を取得したので、今後は国内のみならず国際展開も視野に入れ、精力的な普及活動を行っていきたいと考えております。



## 2022年度日本雪氷学会技術賞を受賞

雪氷防災研究部門の安達聖特別研究員が「雪氷用MRIによる湿雪試料の計測技術の開発と応用」にて、2022年度日本雪氷学会技術賞を受賞しました。

**受賞コメント** このたび日本雪氷学会から技術賞をいただきました。雪氷研究でのMRIの利用に関する研究は学生時代から継続してきたテーマです。今回の受賞は雪氷の観測や実験技術、雪氷用MRIの開発に協力いただいた関係者の皆様のおかげと感謝しております。雪氷用MRIでは雪氷に含まれる液体の水を対象としており、水分分布や含水率の計測だけでなく、水が浸透する様子を連続的に3次元可視化することに成功しました。近年

では、MRIだけでなくX線CTと併用することにより、雪氷の微細三次元構造と水の浸透現象の関係を明らかにする研究を進めています。



## 第38回寒地技術シンポジウムにて寒地技術賞を受賞

雪氷防災研究センターの中村一樹センター長が第38回寒地技術シンポジウムにおいて発表した論文「低気圧性降雪による表層雪崩危険度予測システムの改良」が寒地技術賞（学術部門）を受賞しました。

**受賞コメント** 表層雪崩のうち予測が困難であった低気圧の降雪の形状が原因となる表層雪崩の危険度の可視化に取り組んだ研究です。2014年2月の関東甲信地方の大雪時に発生した多くの雪崩や2017年3月に那須岳で起こった雪崩の現場を目の当たりにするうちに、地図上の危険度の可視化の重要性を痛感しました。雪崩の現場で弱い層や崩れやすい層を形成する雪結晶の形状を調査して気象データと共に解析し、雪崩危険度予測システムを開発しました。



## 日本学術会議 in つくば

2023年2月15日、日本学術会議(梶田隆章会長)が主催する関東地区の地方学術会議「日本学術会議 in つくば」を、国立環境研究所と防災科研の共催で開催しました。防災科研で地方学術会議が開催されるのは初めてとなります。環境・開発と防災・減災をテーマとして、学術的背景や国際協調の議論の経緯も異なる2つの分野の統合的な推進について、日本学術会議幹事会及び関東地区運営協議会委員のほか、関東地区の学術分野、行政、民間企業、市民組織等の関係者が参加し、意見交換を行いました。公開講演会「持続的かつレジリエントな道筋への移行」(会場: 防災科研、Zoomウェビナーのハイブリッド開催)には、一般参加者を含め300名以上が参加しました。



日本学術会議幹事会懇談会の様子  
(中央: 梶田会長)



公開講演会の様子

## 防災科研防災ウォーク表彰式

健康経営の取り組みの一環として、2022年11月7日から2023年1月9日にわたり「防災ウォーク2022」を開催しました。「東海道552.6kmの旅」と題し、毎日の歩数を記録して、4週間の歩数合計によって東京駅から新大阪駅までの間をどこまで歩けるかを競い合いました。参加者50名の中から栄えある第1位に輝いた久保田晃平氏は、4週間の歩数合計799,368歩で米原駅に到着しました。2023年2月13日に表彰式を執り行い、健康づくり責任者である安藤慶明理事より、上位8名と特別賞5名に表彰状が贈呈されました。今後もこのような所内イベントで、楽しみながら職員の健康保持・増進につなげていきたいと思っております。



第1位の久保田晃平氏

## 住民の皆さんと一緒に学び、学び合う、共同地域学習の実践

今年度、水・土砂防災研究部門の上米良秀行特別研究員は、何も無い大地に自然に川ができてそれが変化してゆくしくみを、住民の方々と一緒に模型を使って目で見て手で触れて経験的に学びました。長さ2m、幅1mの実験台の上に砂を敷きつめて上流から水を流すと、流れる水の働きによって地形が自然に変化してゆきます。このような模型を持参して、新潟県長岡市の千手地区の地域行事や高等専門学校の授業、茨城県つくばみらい市の小学校の学校行事で、共同学習に取り組みました(右写真)。参加者から、川のしくみを理解できた、近所の川も観察したい、といった声をいただき、研究者の側も、住民にとって川はどういう存在か、子供の目に川はどう映っているか、等を知ることができ、多くの学びを得ました。



### 防災科研ニュース

2023 No.220

2023年3月31日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください e-mail: k-news@bosai.go.jp

■発行



国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 企画部 広報・ブランディング推進課  
防災科研ニュース係 TEL.029-863-7788 FAX.029-863-7699

●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます (<https://www.bosai.go.jp/>)